

第7回 うえだ 城下町映画祭

2003 11.8 SAT - 9 SUN

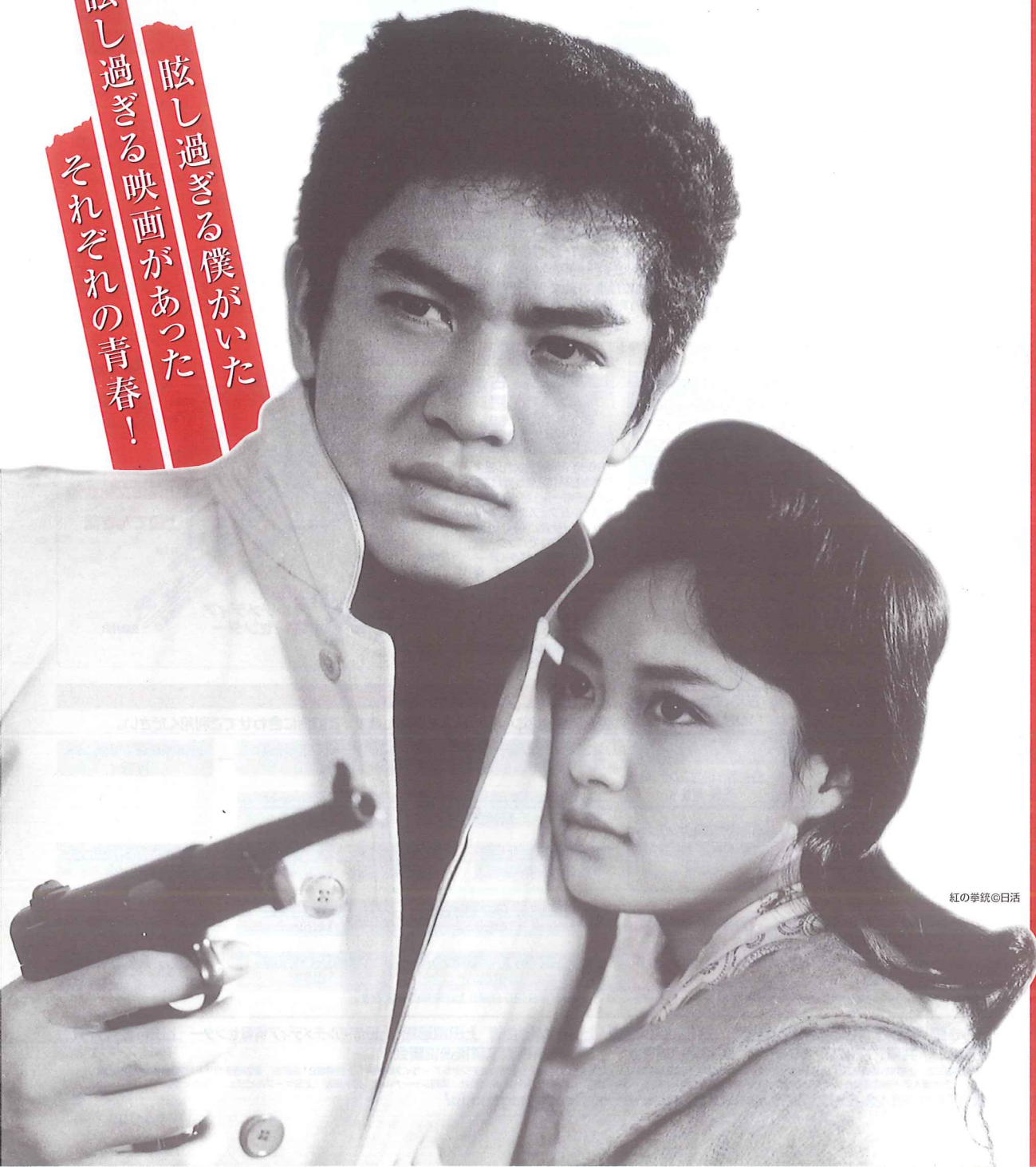
上田市文化会館・上田市マルチメディア情報センター・上田でんき館

チケット料金 (全ての会場に入場できます) ■1日券=1,800円 (前売1,500円) ■高・大生=800円 ■中学生以下=500円

(■自主制作映画コンテストのみの当日券=200円)

チケット販売/上田映劇 上田でんき館 琴光堂 平安堂各店 (一部取扱わない店もあります) 二葉楽器小諸店 上田市文化会館
上田創造館 上田市マルチメディア情報センター 上田市教育委員会

眩し過ぎる映画があった
眩し過ぎる僕がいた
それぞれの青春!



紅の拳銃©日活

会場

上田市文化会館

11.8 SAT

「ごめん」



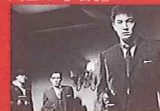
「ロボコン」



「旅の重さ」



「紅の拳銃」



11.9 SUN

「肉弾」



「アカリイミライ」

(カンヌバージョン)



「ヒポクラテスたち」



「時をかける少女」



上田市マルチメディア情報センター

第1回
自主制作映画
コンテスト

11.8 SAT

予選通過作品上映
観客賞投票

11.9 SUN

発表・表彰式
受賞作品上映

【特別上映】

「スパイ・ソルゲ
メイキング映像」

「ÉMOTION=伝説の午後
いつか見たドラキュラ」



監督●大林宣彦

上田でんき館

11.8 SAT

11.9 SUN

(10日以降は一般上映)

協賛上映

「スパイ・ソルゲ」(JSDC)



「ごめん」



2002年 製作:『ごめん』製作事業委員会 監督:富樫森 出演:久野雅弘 櫻谷由貴 花岡村幸 三田篤子 河合美智子
ほほえましくもちょっと切ない、思春期の一瞬を切り取った宝箱のような映画。大阪に住む小学6年生のセイと七尾聖市は、なんと授業中にオシッコを漏らしてしまった。慌ててトイレに駆け込むと、「うわっ、オシッコとちゃうやん!」クラスで(たぶん)いちばん最初にオナの男に…!

「旅の重さ」



1972年 製作:松竹 監督:斎藤耕一 出演:高橋洋子 岸田今日子 高橋悦史 三國連太郎 小野寺久美子(秋吉久美子)
男癖の悪い母親を残して家出し、四国遍路の旅に出た少女。ひたすら歩き続ける少女は、旅芸人の一座やトラックの運転手らと出会い、やがて無口な行商人の家へ転がり込む。少女が数々の経験から大人へと成長していく過程を描く。叙情的な主題歌を、吉田拓郎が提供。

「肉弾」



1968年 製作:『肉弾』を作る会=ATG 監督:脚本:岡本喜八 出演:寺田農 大谷直子 笠智衆 北林谷栄 田中邦衛
日本が戦争に敗れたことも知らず、眼鏡をかけ魚雷をしばりつけたドラム缶の中で、ギリギリの太陽の下、海に漂いながら敵船を待っているくあいつ。防空壕の中で結ばれたが空襲で死んでしまった、セーラー服の美しい少女との幸福だった時間を思い浮かべる。

「ヒポクラテスたち」



1980年 製作:シネマハウト・ATG 監督:脚本:大森一樹 出演:古尾谷雅人 光田昌弘 柄本明 伊藤蘭 小倉一郎
医学生・愛作の臨床実習グループには、医者になることに不安を抱くみどり、プレイボーイの河本、脱サラで子持ちの加藤、ガリ勉の大島がいた。寮では、連日のように寮運営や現代医学についての論議が続き、愛作はそんな中で、医者の卵として成長していく。

「ÉMOTION=伝説の午後=いつか見たドラキュラ」



1966年 監督:大林宣彦
海辺の町で育った天衣無縫な明るさを持つ少女エミが、大都会に出てきて内気な少女リサと出会う。ドラキュラ映画へのオマージュあり、三味線を担いだ一匹狼のカウボーイが登場したりと、映画本来の楽しさが全編に満ち溢れていた。1967年「草月アスター・グランドフィルムフェスティバル」に出品され話題となる。今回自主制作映画コンテストを記念して上映します。

「ロボコン」



2003年 製作:『ロボコン』製作委員会 監督:脚本:古厩智之 出演:長澤まさみ 小栗旬 伊藤淳史 塚本高史
高専の里美は、授業の課題で出た手作りロボットが余りにもひどく、居残り授業確定。担任から出された免れる条件は、「ロボット部に入って、ロボコンに出場する事!」。案内されたロボット部はやる気のない部員1人と2人の変わり者。そんな、友情、根性、努力、の似合わない4人の熱い挑戦がはじまった!

「紅の拳銃」



1961年 製作:日活 監督:牛原陽一 原作:田村泰次郎 出演:赤木圭一郎 笹森礼子 白木マリ 吉行和子 芦田伸介
プロの殺し屋に仕立て上げられ、戦慄の暗黒街に跳乗する悪徳ボスに敢然と、変幻自在のガンさばきで挑戦する熱血の男。赤木圭一郎の心意気を描く、凄絶の痛快アクション巨編。男性的な魅力と卓越したムードで、日活第三の男と言われた赤木不朽の最高傑作だが、公開された年に事故死、遺作となった。

「アカリミライ」(カンパバージョン)



2002年 製作:アカリミライ製作委員会 監督:脚本:編集:黒沢清 出演:オダギリジョー 浅野忠信 藤竜也
行き場のない苛立ちを抱え、目的もなく生きる仁村雄二にとって、同僚の有田守は、心を許せる唯一の存在だった。守は猛毒を持つクラゲを大切に育てているが、彼は突然クビになってしまう。むしゃくしゃした雄二は鉄パイプを手にして社長の家に急ぐが、そこには血の海で倒れている夫婦の死体があつた…

「時をかける少女」



1983年 製作:角川春樹事務所 監督:大林宣彦 出演:原田知世 高柳良一 尾美としのり 筒井康隆の少女少女向けのSF小説を原作に、ある日突然時間を超える能力を身につけた女子高生少女の恋愛を描いている。放課後、掃除当番で学校に残っている和子。実験室の物音が彼女の様子を見に行くと、床に落ちたフラスコから白い煙、そして強烈なラベンダーの香り…。気を失った彼女は、それ以来、不思議な経験の連続。

「スパイ・ゾルゲ」(上田ロケ)



2003年 製作:スパイ・ゾルゲ製作委員会 監督:脚本:監督:篠田正浩 出演:イアン・グレン 本木雅弘 椎名桔平
昭和8年から太平洋戦争開戦前夜まで、日本政府の最高機密情報を盗み出し、モスクワに送り続けたロシア人スパイ・リヒャルト・ゾルゲ。20世紀最大の国際スパイ・ゾルゲの活動を圧倒的なスケールで描き出す超大作。(上田市マルチメディア情報センターでは、メイキング映像を上映します)

スケジュール

	上田市文化会館ホール TEL.0268-22-0760	上田でんき館 TEL.0268-23-3357	上田市マルチメディア情報センター TEL.0268-39-1000
11/8(土)	10:00 (オープニングセレモニー) 12:00 ごめん	9:20 12:22 スパイ・ゾルゲ	10:30 自主制作映画コンテスト 12:00 入選作品上映会(観客投票)
	昼休憩		昼休憩
	13:00 14:58 ロボコン		
	15:10 ゲストコーナー 15:50 古厩監督トーク	15:05 18:07 スパイ・ゾルゲ	13:00 自主制作映画コンテスト 18:30 入選作品上映会(観客投票)
	16:00 旅の重さ 17:31		
11/9(日)	17:40 紅の拳銃 19:06		
	10:00 肉弾 11:56	9:20 12:22 スパイ・ゾルゲ	10:30 スパイ・ゾルゲメイキング映像 11:10 11:20 ÉMOTION=伝説の午後 12:00 いつか見たドラキュラ
	昼休憩		昼休憩
	13:30 アカライミライ 15:02 (カンヌバージョン)		13:00 自主制作映画コンテスト 14:00 発表・表彰式
	15:10 ヒポクラテスたち 17:16	15:05 18:07 スパイ・ゾルゲ (10日以降は一般上映になり、上映時間も変更になります。)	14:15 自主制作映画コンテスト 大賞・優秀賞・観客賞作品 17:30 上映
	17:30 時をかける少女 19:14		

ゲスト



1968年長野県生まれ。日大芸術学部時代に撮った「灼熱のドッジボール」が、'92年ぴあフィルムフェスティバルでグランプリ受賞。'94年「この窓は君のもの」でバンクーバー映画祭「ドラゴン&タイガー」ヤングシネマ賞を受賞。長篇2作目の「まぶだち」は、'01年ロッテルダム国際映画祭でグランプリにあたる「タイガーアワード」(日本人で3人目)と、「国際批評家連盟賞」をW受賞している。

会場



シャトルバス

会場間を結ぶシャトルバスを運行します。ご都合に合わせてご利用ください。

- ① 上田駅・温泉口 9:40 → 大学前駅(別所線) 10:10 → 上田市マルチメディア情報センター 10:20
- ② 上田市マルチメディア情報センター 11:30 → 上田市文化会館 12:00
- ③ 上田市文化会館 12:10 → 上田駅・温泉口 12:25 → 大学前駅(別所線) 12:50 → 上田市マルチメディア情報センター 13:00
- ④ 上田市マルチメディア情報センター 14:20 → 上田市文化会館 14:50
- ⑤ 上田市マルチメディア情報センター 18:40 → 大学前駅(別所線) 18:50 → 上田駅・温泉口 19:20

※11/9(日)は繰り上げ発車の予定です。

第1回
自主制作映画
コンテスト
上映会

「映画の街・上田」から新たな才能の発掘を目指して行われる「自主制作映画コンテスト」。あなたの投票により「観客賞」が選ばれます。抱腹絶倒のコメディから心に染み入るドラマまで、きっと満足できる傑作ぞろいです。ぜひあなたの一票を投じてください。(審査員:古厩智之監督、他)